

多死社会を迎え、核家族や老々介護、単身世帯の増加により今後介護施設が終の棲家として選択されるケースが増えてきます。そのような介護施設での看取りの特徴や問題点としては、介護施設そのものが制度上多様化している点や、経営者やスタッフのスタンスが様々でホスピスマインドにも温度差が生じる点にあります。さらに、高齢入居者には認知症の合併による意思決定支援の困難さも生じており、本人の意思よりも家族の意思が重視される傾向にあります。さらに、看取りのプロセスにおける評価はいまだに定まったものではありません。今回のシンポジウムでは、積極的に看取りを行われている様々な制度下での施設の方々にお集まりいただき、それぞれの現場での課題を共有しながら、在宅ホスピス緩和ケアの一部となる看護施設での看取りをどう充実したものにするのか？あるいは一般住民にどう啓発していくのか？地域包括ケアのなかでどう位置付けできるのか？ということなどを議論していきたいと思えます。